

「今、すごく気になるのが、 第3回の愛川レッドカーペット」

「クリエイターと愛川町がつながることが、
愛川町の強いPRになりますよね」



宮原 今、すごく気になるのが、第3回の愛川レッドカーペットです。今回ふっ飛んだじゃないですか。PR動画に軸を置かずに、クリエイターと愛川町をつなげるっていう魂胆があったって思いをお聞きして、なるほどなっていました。

シュ 確かに、PR動画募集のコンテストとは一線を画しました。

宮原 クリエイターと愛川町がつながることが、実は愛川町の強いPRになりますよね。クリエイターにとって面白そうと思えるコンテストになっていくことで、もっとたくさんのクリエイターが愛川町に目を向ける。作品の層が厚くなれば、愛川レッドカーペットはめちゃくちゃ面白くなるだろうなって。

岡戸 最優秀賞の映像制作チームOR→Pさんも、今回からの参加ですね。ああいう、たくさんの作品を作っているチームも呼び込めたことで、コンテスト全体の底上げができていますって思いました。

CD 基本、やっていることは変わらないんですね。クオリティが明らかに上がっているのは、どうしてか分からないんですけど、次やればまた上がるんだろうな、面白いじゃん。

シュ お二人の次の活動も気になります。私、お二人は学生時代からの友人だって思っていました。

宮原 いやいや、本当に短いです。去年の3月に初めましてって感じで。

岡戸 でも、撮影現場で宮原君に丸投げできたのも、感覚が信用できると思っていたからです。感覚的なことを言ってもちゃんと酌んでくれる感じがしたので、一緒にやりたいと。もちろんこれからもやっていきたいと。

宮原 自分たちには色々なバックグラウンドがあって、今回は映像という枠だったんですけど、別の枠もあって。

岡戸 3月に、神奈川県主催の「神奈川かもめ「短編演劇」フェスティバル」という演劇フェスティバルがあるんですけど、僕の劇団が団体として選ばれ、短編のお芝居ができることになったんです。そこで宮原君にも協力していただく感じです。演劇もやりたいなって思いもあるので、それもやりつつ、映像もやれたらいいなって思っています。

宮原 みんなが何かしらやりたいことをする土台というか、やる連盟みたいな。

シュ 自分の作りたいモノがある時は相手に協力してもらい、相手を作りたいモノがあるときは自分が協力する、そんな関係性なんですね。

宮原 定期的な緩やかなつながり。そこから化学反応が生まれるのかなって思っています。

シュ 最後に、クリエイターとしての今後の目標を教えてください。

宮原 4月から、映像の専門学校に通おうと思っています。映画を撮るための環境や人脈を作るために。とはいえ会社もあるので、二足のわらじはめっちゃめっちゃ厳しいんですけど。今年は自分に負荷をかけながら違う作品も撮りたいなって思っています。新しい挑戦をしたいです。

岡戸 僕はやっぱり書きたいなって。物語を作りたいという気持ちが強くて、小説にも挑戦したいという気持ちもあります。宮原君と出会って新しく映像を作る土台ができたみたいになって、人脈も広げたい。働きつつ、人脈も広げつつ…自分が面白いなって思える活動を続けられたらと思います。

CD 二人とも素晴らしい。運営事務局も、皆さんの活動を陰ながら応援したい。とか言ってまた愛川町で1本撮ってよって頼むかもしれないけど(笑)

宮原 是非！ラーメン食べるついでに(笑)

岡戸 主は隠国なんで(笑)

CD いや～本当に今日は面白かった。

宮原 お腹いっぱい。

宮原 自分たちもお腹いっぱいです。

ラーメンで(笑)



TOO MATCH (2018 日本)

第2回愛川レッドカーペット優秀賞受賞作品。
マッチングアプリで知り合ったアイとデートの約束をしたカズヒデ。しかし待ち合わせ場所に幼馴染のマユミが現れ、出会う前から丸裸に！男女が気軽に出会ってしまうSNSとリアルが交錯する様を、テンポ良くコミカルに描いた作品。

出演 赤間光介・旭レナ・江藤菜美子

音響 松隈結花 衣装 大山あず紗

脚本 岡戸優太 監督・編集 宮原拓也

